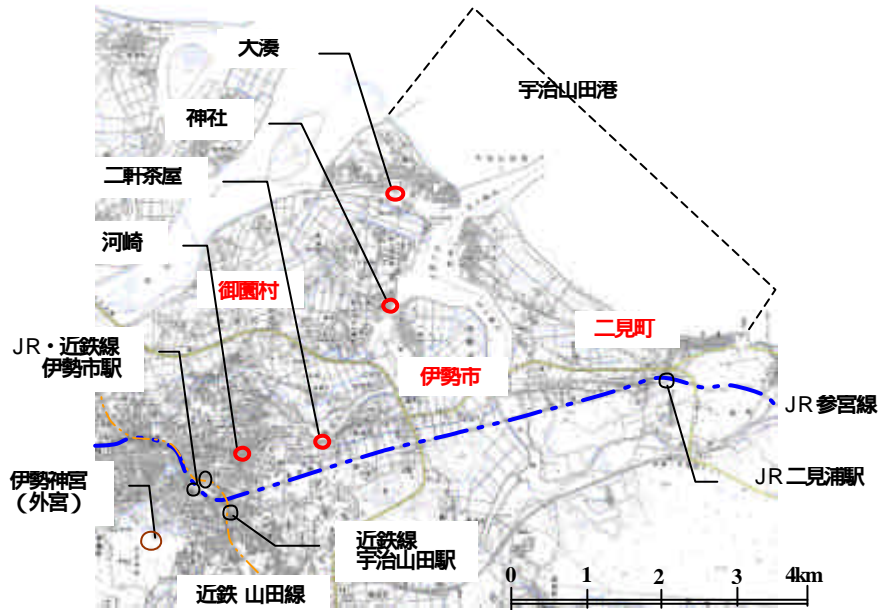
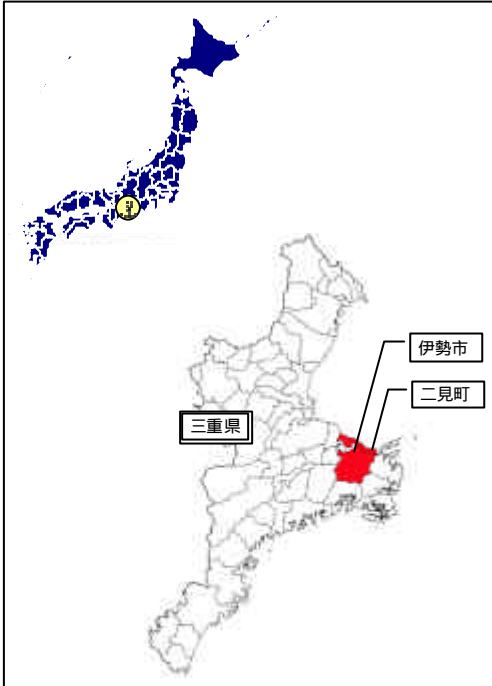


『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(宇治山田港)

地域の現状



宇治山田港（地方港湾）

港湾管理者：三重県

所在市町村：伊勢市、二見町

人口：108,000人（伊勢市、二見町）

（平成15年3月 住民基本台帳）

観光客数：約600万人（伊勢神宮参拝、平成13年、伊勢市観光統計）



【大湊】



【神社】



【河崎】

豊かな歴史文化があふれるみなと

宇治山田港は、五十鈴川、勢田川の河口に位置する河口港である。

「大湊」、「神社」、「河崎」の3つの港からなり、古くから、全国各地の『お伊勢まいり』客を乗せた船や外来の物資を集散する様々な船が往来していた。

「大湊」は、神宮用材の貯木場があり、神宮の御厨、御園からの貢進を受け入れた港で木造船業が発達し、豊臣秀吉が朝鮮出兵に使った日本丸を建造するなど、古くから造船のまちとして栄えてきた。

「神社」は五十鈴川、勢田川に通じる水運の要地で、外来の物資が集散する幾多の船が往来し、これに伴う海運業や船宿を営むものも多かった。三河、知多、遠州方面からの航路が開かれ、参宮客の海の玄関口として栄えた。

「河崎」は、勢田川の水運を利用し、地域の住民と年間数百万人に達する参宮客（往時の日本の人口の約5分の1が参詣）の台所として繁栄し、物資を供給する問屋街としても賑わった。

地域の課題

かつて舟参宮で栄えたみなとまちの再生

伊勢参りの参宮船が陸上交通にとってかわり、「みなと」付近で軒を連ねていた町内の旅館、商店などが立ち消えるなど、空洞化が進んでいる。

そのため、交流と連携・新時代の創造のために、集客と交流を核とした舟参宮の復活による「みなとまち」の再生が期待されている。

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(宇治山田港)



【九鬼嘉隆と日本丸】



【日本初の鉄板船(安宅船)】



【河崎のまちなみ】

みなとまちづくりの目標

交流と連携・新時代創造に向けた

『新たな海の玄関口としての宇治山田港再生』

豊かな歴史と文化をいかした市民に親しまれ、人々を癒すみなとまちづくりを進め、新たな海の玄関口として再生(集客と交流拠点)を目指す。

活用したみなとの資産

伊勢神宮への船参宮

かつて三河、知多、遠州等との航路が開かれ、参宮客の海の玄関口として繁栄した歴史をもつ。

造船のまち

織田信長の水軍として活躍した・九鬼嘉隆の日本初の鉄板船『安宅船(軍船)』、豊臣秀吉が朝鮮出兵に使用した日本丸や白瀬中尉による日本初の南極探検の際に使用した海南丸などを築造した歴史をもつ。

舟運によって栄えたまち

参宮客をもてなした問屋街・蔵や商家等が残るまち並みをもつ。

豊かな「歴史と文化」を活かしたみなとまちづくり

取り組み体制

取り組みの実施にあたっては、NPO伊勢「海の駅・川の駅」運営会議が主体となって実施した。

NPO伊勢「海の駅・川の駅」運営会議は、宇治山田港湾整備促進協議会の呼びかけで、今回のみなとまちづくりの対象である、大湊や神社をはじめとする地域におけるNPOなどの13もの市民組織が連携して設置したNPOである。

船参宮などのクルージングで寄港した地域では、それぞれの地域で活動するNPOなどの市民組織が、「語り部」となってまちの紹介や案内を行った。

NPO 伊勢『海の駅・川の駅』運営会議

【大湊地区】

- ・大湊町振興会
- ・NPO鷺ヶ浜クラブ
- ・ゴリキマリナビレッジ
- ・セラビリティ伊勢

【浜郷地区】

- ・一色町自治会
- ・二軒茶屋どんどこ祭り実行委員会

【神社地区】

- ・神社地区振興会(神社港自治会、竹ヶ鼻町自治会、小木町区、馬瀬町区、下野町区)
- ・NPO神社みなとまち再生グループ

【有綱地区】

- ・NPO伊勢河崎まちづくり衆

- ・NPO伊勢まちづくり会議
- ・NPO伊勢水の会
- ・勢田川惣印水門会

【常滑地区】

- ・新伊勢湾21世紀の会

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(宇治山田港)

みなとまちづくり談義

概要

今後、みなとまちづくりプランを策定するため、大湊、神社、一色、黒瀬・通・田尻、二軒茶屋、河崎、今一色、二見浦の8地区の市民等約100人が集まり、各地区のみなとまちづくり資源(地域の宝物)や将来のみなとについて話し合った。

【みなとまちづくり談義プログラム】

実施日：平成15年11月3日(月)13:00~17:20

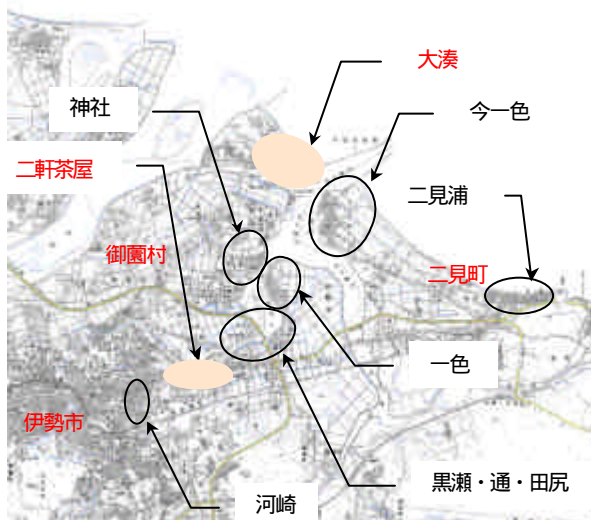
場所：伊勢河崎商人館

テーマ：『みなとまちづくり』とは~みんなで学ぼう~
地域の『宝物(みなとまちづくり資源)』を探そう
こんな『みなと』にしたい!『みなと』への思いを語ろう

取り組みの成果

みなとまちづくり友運の高まり

- みなとまちづくりの気運が高まっている地区住民(約100名)が一堂に会して話し合ったことを通じて、お互いが刺激となり、今後も継続的な開催を求める声が多く得られた。
- 一色自治会からみなとまちづくりの出前トーク¹の要請や、大湊に隣接する、「御園村」の住民が「みなとまちづくり」に興味を示すなど、みなとへの理解や関心が一層高まった。



【グループ発表会の模様】



【グループ検討の模様】

伝統行事復活による南知多町(篠島)との地域間交流

概要

かつて伊勢国度会郡に属し神宮領だった篠島の伝統行事である、『太一御用』干鯛奉納御幣鯛船²の歓迎行事を神社棧橋で行った。さらに舟運の社会実験として木造船「どんどこ丸」で篠島からの鯛船乗船者の船参宮(外宮)体験を行った。

実施日：平成15年10月12日(日)9:00~17:00

場所：神社~(二軒茶屋・河崎)~外宮

取り組みの成果

地域間交流の推進のための環境づくり

- 当初(平成10年)300人だった参加者も平成15年には1,800人と増加し、市民行事として育ちつつある。
- 今回、伊勢歴史の道の復活のため、試験運航を行った常滑側の受入組織「新伊勢湾21世紀の会」が、NPO伊勢「海の駅、川の駅運営会議」に参画することになった。
- 歓迎行事イベントの会場スペースの確保などの機能充実が課題である。

¹ ふれあい出前トーク：伊勢市が実施している事業で、市長など市の幹部が、自治会など集会に出向き、聞きたいテーマを話す事業

² 『太一御用』干鯛奉納御幣鯛船(『たいちごよう』ひたいほうのうおんべだいせん)：倭姫命(やまとひめのみこと)が、伊勢湾の各地を巡幸の途中篠島へ立ち寄り、篠島を伊勢神宮領に定めて以来、島の周辺で獲れる鯛を、伊勢神宮の三大祭(6月、10月、12月)にあわせて、年に3度伊勢神宮へ干鯛を奉納する行事で、平成10年10月に、70年ぶりに復活した。

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(宇治山田港)

伊勢ゆかりの木造船建造 匠の技』伝承事業

概要

伊勢ゆかりの和船文化を伝承し、市民のみなどの歴史への関心を高めるために、木造船技術発祥の地といわれる伝馬船1隻を建造し、その建造から進水式までの過程を、絵コンテなどで記録・保存し、ホームページなどにも公開した。また、大工の登録、見学会を行い、船大工道具等の展示室をみなとまち館³に設置した。

実施日：平成15年10～12月

場 所：神社みなとまち再生グループ事務所

内 容：伝馬船の建造/船大工登録/建造見学会/伝馬船建造過程の記録(ホームページ公開、絵コンテ)/船大工道具の展示



【伝馬船の建造状況】

取り組みの成果

木造船建造 匠の技』、総合学習の時間に利用

- 約30年ぶりに伝馬船建造の過程がホームページ上での公開や地元CATVで1ヶ月間放映されるなどによって、市民の関心を得、伝馬船の進水式には市民約100人が参加した。
- 木造船建造の過程を、神社小学校5年生が総合学習の時間を利用して見学会に訪れるなど、船大工の道具などを展示した『みなとまち館』は地元の小学校による総合学習の時間に活用されることが検討されている。
- また、「みなとまち館」は、映像設備を整えるなどの機能を充実させ、「まちかど博物館」⁴として多くの人に見学してもらえるような方向で検討している。
- 建造された伝馬船は、みなとの理解を深めていくために、今後、子どもたちが遊べるレースイベントや、櫓を使った操船学習などの活用される予定である。



【みなとまち館のあるNPO神社みなとまち再生グループ事務所】

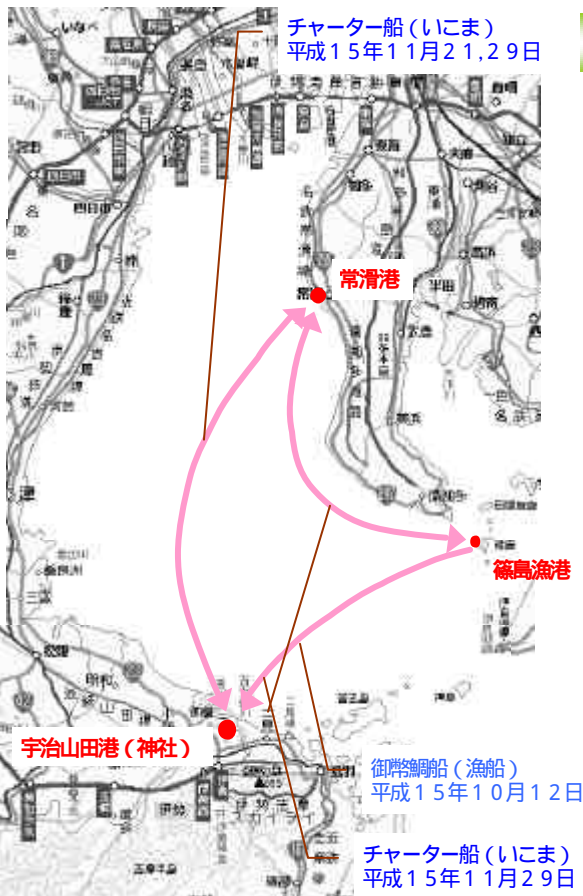


【みなとまち館の展示室(事務所2階)】

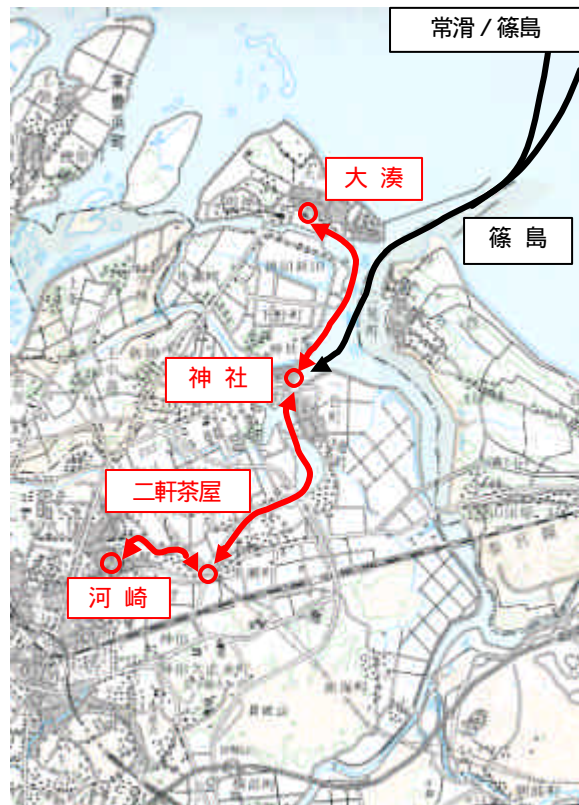
³ みなとまち館：神社港にあるNPO神社みなとまち再生グループ事務所2階を、資料館「みなとまち館」として平成16年3月オープンした。ホームページアドレス：調査中

⁴ まちかど博物館：三重県が推進している取り組みで、個人のコレクションや伝統の技、手仕事などを、一般の人にそれぞれの仕事場の一角や個人のお宅で公開する、新しいかたちの博物館。

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(宇治山田港)



【常滑、篠島との舟運社会実験ルート】



港内における舟運社会実験ルート

伊勢歴史の道にかかる舟運の社会実験

概要

明治の終わり頃まで続いたとされる、伊勢神宮の船参宮（伊勢歴史の道）復活と、平成 17 年 4 月に常滑間に就航予定である海上タクシーの試験運航のため、宇治山田港湾整備促進協議会メンバー等 25 人による舟運の社会実験を行った。常滑 - 神社間は、チャーター船（いこま）で運航し、神社で木造船どんどこ丸に乗り換え、河崎などへ運航した。

また、港内を起点とした船参宮の実現に向け、木造船の運航ルートや運航時の語り部などのプロジェクト等を検証するため、関係者や一般の人も含め総勢 30 人により、河崎、二軒茶屋、神社や大湊とのクルージング（語り部と行く「川湊体験クルージング」）も実施した。

神社 二軒茶屋 河崎間（篠島の人々による船参宮体験）

実施日：平成 15 年 10 月 12 日（日）

参加者：干鯛奉納御幣鯛船参加者 篠島 10 人

船 船：二軒茶屋木造船（どんどこ丸）

河崎～二軒茶屋～神社～大湊間

（語り部と行く「川湊体験クルージング」）

実施日：平成 15 年 10 月 19 日（日）

参加者：NPO伊勢『海の駅・川の駅』運営会議、

その他一般参加者等 30 人

船 船：二軒茶屋木造船（どんどこ丸）他 3 隻

常滑～神社～河崎間

実施日：平成 15 年 11 月 21 日（金）

参加者：宇治山田港湾整備促進協議会メンバー等 25 人

【常滑～神社（宇治山田港）間】

船 船：チャーター船（いこま）

【神社～河崎】

船 船：二軒茶屋木造船（どんどこ丸）

大湊～神社～二軒茶屋～河崎間

実施日：平成 16 年 3 月 14 日（日）

参加者：伊勢市民、周辺市町村民約 550 名

【大湊～神社～二軒茶屋～河崎間】

船 船：二軒茶屋木造船（どんどこ丸）他 4 隻

【神社～一色間】（渡しの再現）

伝馬船体験乗船：約 145 名が乗船



チャーター船：いこま



木造船：どんどこ丸

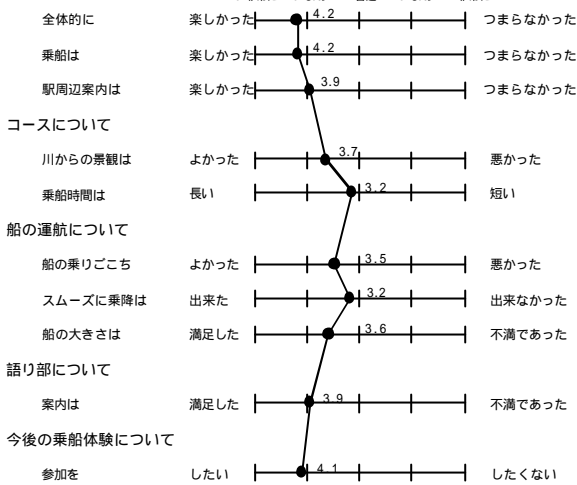


伝馬船

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(宇治山田港)

取り組みの成果

川湊体験について



【語り部と行く「川湊体験クルージング」
参加者 17名の評価】

伊勢歴史の道の復活

- 平成17年春に常滑間との運航を目指す取り組みでは、当面、チャーター船による体験イベントや海上タクシーの運航から始める方向で検討している。
- 同じように、平成17年に復活を目指す木造船による舟参宮の取り組みでは、参加者の満足度や参加意向も高く、また、運航スタッフ、語り部としてのノウハウを得ることができた。
- 今後、乗船者の満足度を高めるためには、航行する勢田川の浄化や放置艇対策などによる沿川の景観向上を進める必要がある。
- さらに、船内における語り部による案内はエンジン音で聞きづらいなどの指摘があり、語り部の育成とあわせ、まちの案内板や歴史文化等を紹介する取り組みが必要である。

今後のみなとまちづくりの取り組みへ

今後は、当面の目標である平成17年より、木造船を使った舟運を就航させるために、次のような取り組みを展開する。

継続的な試験運航の実施による、運航ノウハウの蓄積

今回のみなとまちづくりにおける舟運の社会実験以降も、試験運航を実施し、地域イベントとして定着させるとともに、運航管理を行う、NPO伊勢「海の駅・川の駅」運営会議のノウハウを蓄積させていく。

木造船の建造

日本財団助成事業（平成15～16年）により、引き続き、伝統的な伊勢和船をモデルとする小型木造船（定員20名）を建造していく。

神社港への浮棧橋の設置

乗船客のスムーズな乗り降り为确保するため、河崎、二軒茶屋に続き、神社地区にも浮棧橋の設置を進めていく。（平成16年9月完成予定）



【木造船による舟運ルート】



平成17年 NPO神社みなとまち再生グループ、伊勢「海の駅・川の駅」運営会議による、木造船による舟運（舟参宮）の運航の実現